

いよいよ新年度がスタートしました。五月に入って、日中はすでに夏を思わせるような陽気がつづいています。そんな中、今年度もすでに発掘調査が開始している現場もあります。

今号は、^{しものごう}下之郷遺跡の確認調査の結果に加えて、先月記者発表を行い、新聞にも掲載された^{まつづか}松塚遺跡から出土した^{かんごう}“甲冑形埴輪”・^{かつちゅうがたはにわ}“大刀形埴輪”^{たちがたはにわ}についての詳細と、毎年6月から開講する『歴史入門講座』の案内もあわせて紹介いたします。

● 発掘調査の成果 ●

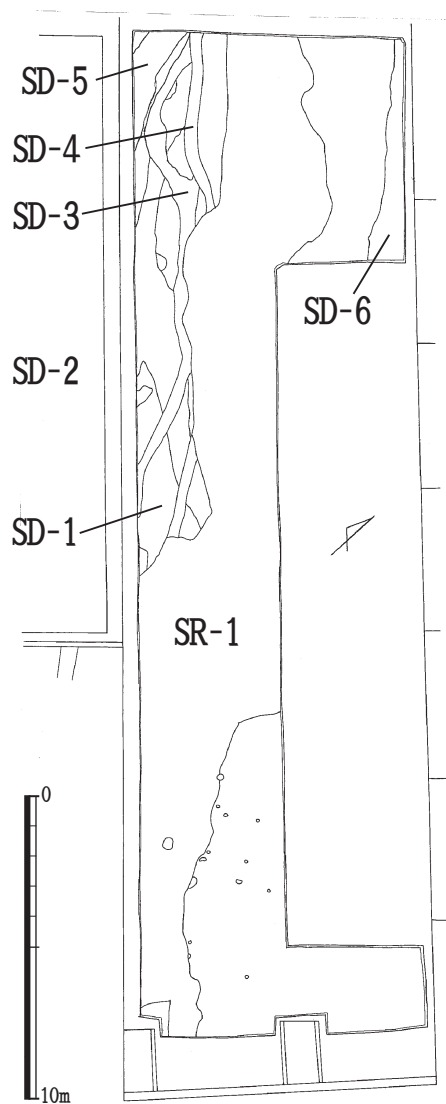
下之郷遺跡の確認調査（第89次調査）

下之郷三丁目字皆廣において、宅地開発に伴う確認調査を実施しました。今回の調査地は、弥生時代中期の3重の環濠の外側にあたり、隣接地ではこれまで22次、79次、80次の調査を実施しています。調査面積は約650㎡で、4月19日から調査を行っております。

検出した遺構は、溝（SD）が6条、河道（SR）が1条、その他にも土坑、ピットが見つっています。このうち河道は、80次調査から続くもので、当調査区を縦断するように延伸します。その規模は、幅が約6～10mもあり、深さは最も深い地点で検出面から約1.1mを測ります。堆積土層を観察すると、河道がある程度埋まっていく過程で、数条の溝が掘り



下之郷遺跡 全景（北西から）



下之郷遺跡 遺構図（1/500）

直されていたことがうかがえます。その溝の一部からは、土師器や布目瓦が出土し、河道の底に近いところでは、緑釉陶器なども出土しています。

溝 SD- 1 ～ 6 でもそれぞれ断面観察を実施したところ、その地点から土師器が出土しており、弥生時代中期の環濠より新しい遺構であると考えられます。また、当調査区の北端で検出した溝 SD- 6 は、33 次調査、54 次調査でも見つかったもので、そのまま延伸して、当調査区の南部で確認できると当初は想定していました。しかし、その溝 SD- 6 の延長部分が検出できなかったために、再度 54 次調査地点の一部を確認したところ、この溝は SR- 1 に切られていたことがわかりました。また、溝 SD- 6 からは土師器が出土しており、古墳時代以降の溝である可能性があります。

これまでの下之郷遺跡の調査で、弥生時代中期に属する 3 重の環濠の外側に併走する溝は、環濠に付随し、環濠に取水するためにあった遺構と思われていましたが、今回の調査成果によりもう一度検討する必要があると思われます。(畑本)

● 報道された松塚遺跡の埴輪 ●

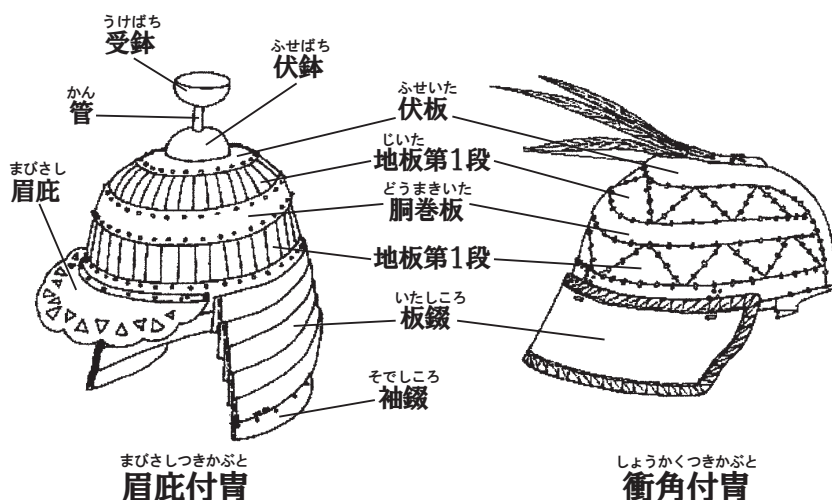
昨年度の乙貞 180 号で紹介した松塚遺跡第 2 次調査で出土した甲冑形埴輪と大刀形埴輪が、4 月下旬の新聞記事に掲載されましたので、その詳細について改めて報告したいと思います。

甲冑形埴輪は、鉄製や革製の冑や甲などの武具を形象した埴輪です。今回出土した埴輪は、冑の部分のみが復元できました。古墳時代の一般的な冑には衝角付冑と眉庇付冑の二形式があり、いずれも埴輪に形象されています。全国的には前者の衝角付冑の例が多くみられる一方で、今回出土した埴輪は後者にあたり、全国で 14 例目と非常に少ない傾向にあり、滋賀県内では初の事例になります。冑の受鉢と管の部分は失われていますが、伏鉢から鋳の部分が出土しています。伏板と地板、地板と胴巻板を段差によって表現するなど、これまで知られている出土例の中で最も精巧に作られています。

大刀形埴輪は、鹿角装や木装などの大刀を形象した埴輪です。これまでに全国で 170 例以上出土していますが、そのほとんどが 6 世紀代に属するもので関東に出土例が多く、5 世紀代のものは 15 例程度しか確認されていません。今回出土した埴輪は、鹿角装状の大刀を形象したもので、その中でも最古級に位置づけられる埴輪です。手で握る柄の部分しか残っていませんが、サーベルの護拳部にも似た勾金と呼ばれる部分もよく残っており、柄頭をはじめ全体的に精巧に作られています。



出土した甲冑形埴輪

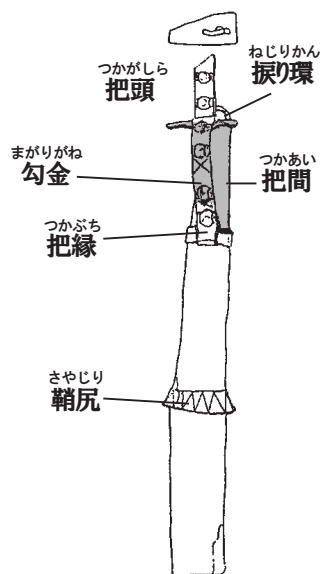


今回出土した埴輪とその意義について、埴輪研究の第一人者である高橋克壽氏(花園大教授)からは「ともに、古墳時代中期の器財埴輪きざいはにわの中で、全国的にも残りのよい代表的な作品といえ、ともに出土した馬形埴輪うまがたはにわの部材を見ても、その製作にあたった工人は畿内王権中枢の埴輪工人か、その影響を強く受けた工人であったことが推測できる。ひいては、古墳あるいは古墳群のリーダーが王権に一定の地位を認められた人物であったと考えることができる」との評価をいただきました。また、近江地域の埴輪に詳しい辻川哲朗氏(公益財団法人滋賀県文化財保護協会)からは「今回の調査によって、野洲川左岸扇状地扇央部における有力集団の存在がより明確になり、大規模集落遺跡である辻・高野遺跡つじ たかの(栗東市)を含めて、湖南地域の古墳時代を考える手がかりがえられたわけである。近江地域の「地域史」を考える立場にたてば、この点こそが今回の調査の意義の一つといえる」との評価をいただきました。

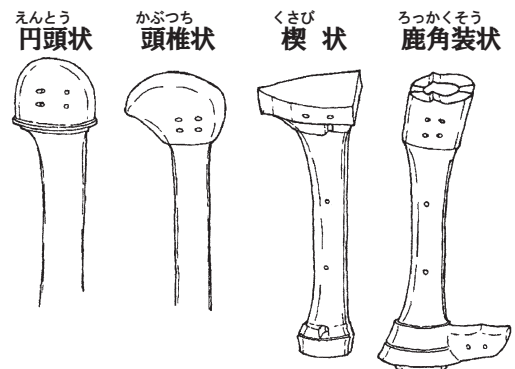
今後、この埴輪を展示等によって活用するとともに、この埴輪を手がかりに当地域の古墳文化や古墳時代像を解明していければと考えています。(平井)



出土した大刀形埴輪



大刀形埴輪の部位 (浅見恵理「西と東の大刀形埴輪」『埴輪研究会 4号』2000年)



大刀の柄頭分類図



今回掲載した遺跡の位置図

● 歴史入門講座のご案内 ●

埋蔵文化財センターでは、6月から平成24年度の歴史入門講座を実施します。今年は『野洲川流域の地域学』をテーマに、専門の先生方をお招きし、わかりやすい解説をしていただきます。申込みは6月1日からとなりますので、ふるってご参加ください。



(開催趣旨)

近江は古来より西日本と東日本を結ぶ結節点にあり、地域間交流のさかんな地域として豊かな文化と個性的な文化を生み出してきました。特に三十万人以上の人々が暮らす野洲川流域地域では、原始・古代より独自の文化を創造し、日本国の形成においても重要な役割を担ってきたと考えられています。

今回の入門講座では、「野洲川流域の地域学」をテーマに、野洲川が形成した広大な沖積平野に開花した文化や伝統をひも解き、新たな地域史や歴史像を目指し開催するものです。

(全体テーマ) 『 野洲川流域の地域学 』

(講座日程)

- | | | |
|-----|-----------|-------------------------------|
| 第1回 | 6月16日(土) | 「伊勢遺跡とは何かー野洲川流域の弥生遺跡群ー」 |
| | | 講師 伴野 幸一(守山市教育委員会) |
| 第2回 | 7月21日(土) | 「野洲川流域学の提唱ー新たな歴史像の創造ー」 |
| | | 講師 高谷 好一さん(京都大学名誉教授) |
| 第3回 | 9月15日(土) | 「近江からみた古代国家の形成ー大岩山銅鐸と伊勢遺跡ー」 |
| | | 講師 森岡 秀人さん(奈良県立橿原考古学研究所客員研究員) |
| 第4回 | 10月20日(土) | 「守山のあけぼのー野洲川流域の縄文時代ー」 |
| | | 講師 中村 健二さん((財)滋賀県文化財保護協会) |
| 第5回 | 11月17日(土) | 「安国造ー野洲川流域の古代豪族ー」 |
| | | 講師 大橋 信弥さん(守山市文化財保護審議会委員) |
| 第6回 | 12月15日(土) | 「文字が語る古代の野洲・栗太郡」 |
| | | 講師 濱 修さん((財)滋賀県文化財保護協会) |

(主 催) 守山市立埋蔵文化財センター

(開催場所) 市立埋蔵文化財センター2階会議室(第3回～6回)
市役所東棟3階会議室(1回目、2回目)

(開催時間) 午前9時30分から11時30分まで

(定 員) 先着60人

(受講料) 1,200円(講座6回分。1講座のみ受講される場合は、200円/回。)

(申込み期間) 平成24年6月1日から同年6月10日まで

(申込み先) 市立埋蔵文化財センター 電話・FAX 077-585-4397

機関紙『乙貞』は守山市のホームページ(<http://www.city.moriyama.lg.jp>)からも閲覧できます。